

家畜損害防止関連情報

◆牛の難産

畜主から「難産です。至急お願いします」とよく電話がかかってくるのですが、難産の往診依頼のうち、その9割以上は獣医師が到着する前に生まれていたり、助産の必要がないものが多いのです。ですから、日ごろから牛に精通している人に診てもらい、難産かどうか確かめてもらってから依頼しても間に合います。

お産が近くなったら、こまめに牛舎に足を運び様子を観察します。そして、陣痛が始まったらよく注意して見ます。破水は2回あり、1回目は胎児の尿によるもので黄色っぽく、2回目は透明なドロドロした液です。この2回目の液が出てから、約2時間経っても生まれないうちが難産ですので、大至急往診を依頼してください。あわてず、状況を確認してから行動しても遅くはないのです。